

★第21回定期総会  
(書面決議)のお知らせ

例年6月に定期総会を開催していますが、2021年については、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面決議を行います。

「第21回定期総会資料」をお読みいただき、「書面表決書(官製葉書)」にご署名及び各議案への賛否をご記入の上、6月20日(日)までにご提出(投函)をお願いします。

なお、詳細は、同封の「第21回定期総会の開催(書面決議)について」をご覧ください。

●『設立20周年記念文集』発行に向けて  
～会員みなさまに寄稿をお願いします～

白子川源流・水辺の会は本年6月3日、設立20周年を迎えます。節目の年に当たり、会員みなさまから寄稿を募って、記念文集を出したいと、下記のように企画しました。

テーマは「おらが川・おらが村」。文字数は自由。ぜひ、あなたの故郷の川やそれにまつわる思い出をご紹介ください。

この源流通信でリレー掲載中の「おらが川・おらが村」も参考にしてください。故郷の川では書きにくいという場合は、そこから離れて水辺の思い出や白子川との出会いなど、自由に書いていただいて構いません。**締め切りは7月31日(土)です。**

なお、寄稿の方法など、詳細は別紙をご覧ください。

2月～5月  
活動記録

- 2/20(土) web“源流の森”研究会
- 21(日) WE LOVE 白子川の会
- 27(土) web運営会議
- 28(日) 定例活動(自主参加)

- 3/7(日) みどり広場にカエル池共同設置
- 13(土) web“源流の森”研究会
- 27(土) 運営会議
- 28(日) 定例活動(自主参加)

- 4/10(土) web“源流の森”研究会
- 18(日) WE LOVE 白子川の会
- 24(土) web運営会議
- 25(日) 定例活動(自主参加)

- 5/5(水) アユの放流、web運営会議
- 15(土) web“源流の森”研究会
- 16(日) WE LOVE 白子川の会、運営会議
- 23(日) 定例活動(自主参加)
- 24(月) 出前講演(富士見中学校)

これからの  
活動予定

- 6/6(日) 一斉水質調査
- 12(土) web“源流の森”研究会
- 20(日) 第21回定期総会(書類による)
- 26(土) 運営会議
- 27(日) 定例活動◆

- 7/10(土) web“源流の森”研究会
- 18(日) WE LOVE 白子川の会
- 24(土) 運営会議
- 25(日) 定例活動◆

- 8/14(土) web“源流の森”研究会
- 15(日) WE LOVE 白子川の会
- 21(土) 運営会議
- 22(日) 定例活動◆

- 9/11(土) web“源流の森”研究会
- 19(日) WE LOVE 白子川の会
- 25(土) 運営会議
- 26(日) 定例活動◆

◆白子川源流の定例活動

毎月第4日曜の午後1時30分からで、どなたでも参加できますが、今後の新型コロナウイルス感染状況により、中止とする場合があります。

編集後記

1年前の今頃は「来年の春にはコロナも落ち着いているだろう、それなら…」と、いろいろ計画を練っていたのを思い出します。現実にご存じの通り、ウィルスは変化し、感染率が高い変異種が次々現れ、4月末現在また緊急事態に。「元の生活」に戻れる保証はなくなったようです。

これは自然からの復讐だ、地球を破壊している人間への、という声もありますが、こんな時に私たちを慰めてくれるのも自然、どんな時も春になると花は咲き、鳥は鳴き、川は流れてくれる。だから、外に出よう、身近な自然を楽しもうと思います。気をつけねばならないことは多いけれど、コロナにかからないために生きてるわけではないのだから。(日)

発行 白子川源流・水辺の会  
https://shirakogawa.tokyo/  
編集 小川 郁/喜多 浩子/高宮 信三郎/  
永井 薫/日高 美南子/松岡 直子  
題字 宮本 沙海  
発行部数 1,200部  
共同代表 岡崎 一成/菅沢 博  
事務局 練馬区南大泉1-10-5  
03-3923-8430 菅沢 博



※この会報は年3回発行しています

白子川  
源流通信



シリーズ  
水辺の鳥たち

◆エナガ

「尾羽が柄杓の柄のように長い」のがエナガという名前の由来のようです。とてもすばしっこく、なかなかレンズが追いつきません。メジロ、コゲラやシジュウカラと一緒に集団を組んで、時々白子川にも来ています。

この年は井頭公園の満開の桜の古木に巣をつくりましたが、抱卵中オナガに襲われ、残念ながらエナガ団子(雛が餌を待つ間10羽程度が団子状に小枝に止まる)は見られませんでした。(写真と文:新居和夫 2019年5月撮影)

2021年5月 第62号  
「白子川源流・水辺の会」会報紙

白子川の春

春一番が吹くころ、アズマヒキガエルが産卵のため水辺に集まってきました。クエックエツと鳴きながらカエル合戦がはじまります。

続いて、ホトケドジョウが産卵をはじめ、2～3日で卵から孵化してかわいい小さな赤ちゃんドジョウが泳ぎまわります。そして、カメが冬眠からさめて川の中を歩きまわるようになり、カルガモが巣をつくって卵を産みます。

桜が満開になったころから、クチボソ、アブラハヤ、ギンブナなどが産卵をはじめます。カルガモのヒナが親鳥のあとをピョップピョップと鳴きながらおいかけ、かわいい姿が見られます。カワセミは恋の季節になり、オスがとった魚をメスにあげて求愛をします。

アシヤウキヤガラが芽を吹きだし、カワジシャやキショウブが花を咲かせます。



そして、白子川はたいへんにぎやかな川になります。

しかし、今年はちょっと様子が違います。ホトケドジョウはほとんど見かけません。クチボソやギンブナの姿もありません。かわって、異常なほどたくさんのアメリカザリガニがいます。食べられる魚より、食べる側のザリガニの方が圧倒的に多い状況です。生き物のバランスが崩れていることが心配です。

美しい自然をいとおしく思う気持ちは人として自然なもの。いつまでも、美しい豊かな白子川と暮らしていきたい、そのような水辺の会の活動でありたいと思います。

(岡崎一成)

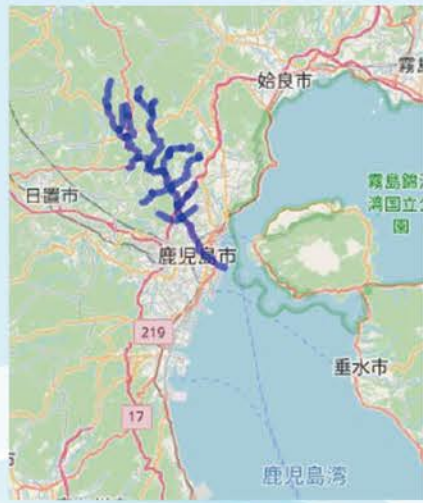


画・萩原和雄



# 故郷の川 甲突川

こうつきがわ



高校生までを過ごした鹿児島市。その真ん中を流れ、正面に雄大な桜島を臨み、錦江湾に注ぐ甲突川の川べりは、青春のデートコース！今や66歳の自分にもそんな季節がありました。

舌に残る川の思い出。今はスーパーではあまりお目にかかれないボラ。近所のおじさんが、川と海が交わる汽水域を好むボラを、川にかかる石橋から投網してごっそり獲って、うちにもしばしば持ってきました。祖母が作ったとろりとした味噌煮の中に、おまけみたいに、直径1センチくらいのへんてこな形のコリコリした物が並んで「ボラのへソ」と教えられ、子ども心に、魚にへソ？と不思議だったのを覚えています。

ボラに限らず、朝投網で獲ったばかりの数種類の魚を担いだ行商人が、勝手口から訪問、竿秤で値段を決めその場で支払い、すぐに食卓にのぼっていました。分業された流通とは無縁の、なんと贅沢な時間があったことか。父と妹と川つたいに海辺に行き、岩についた岩のりをけずって持ち帰り、朝餉にしたこともありました。

甲突川にかかっていた、姿形の立派な5つの石橋(玉江橋、新上橋、西田橋、高麗橋、武之橋)は1800年代江戸時代後期に活躍した肥後の石工、岩永三五郎設計の眼鏡橋。上を路面電車も走り、ずっと現役でしたが、1993年の大水害により、二つが流失してしまいました。水害に伴う河川改修のため、残りは記念公園に移設となりました。石組みのアーチが美しく、渡るたびにきれいなあとと思って大好きな眺めでした。流失後、石組みによる再建をという議論がありました。私はぜひそしたらいいの、と言い、父が「丈夫で新しい素材の方がいい」と言い、考え方が違うなと思ったことをふと思い出します。

(大城資子)



桜島をのぞむ

白子川周辺の生きものたち——④ホタルイ (カヤツリグサ科) の仲間

## 目立たなくてスミマセン

白子川流域には、ホソイ、フトイ、サンカクイなどのイグサ科とカヤツリグサ科に属する多年草の単子葉植物がたくさん生えています。源流部に限れば、今現在勢力を誇るウキヤガラ、それに負けじと20年生きながらえるカンガレイ。

今回ご紹介するのは、そのなかでもちょっと地味なイヌホタルイ。ホタルイは漢字で書くと「蛍蘭」、ホタルの住むような

ところに生える蘭(イ)からきた名前です。現在、源流部木道石段下に一株確認できます。茎(桿状)の長さは30~70cm、直径は2mmほど。“花”は複数の小穂が茎に側生する一年草です。

見過ごしてしまいそうな湿地(水田)雑草ですが、今後、井頭池の“戦草(植物の栄枯盛衰)”にどう関わっていくのか見守っていきましょう。(永井薫)



3月



5月

Welcome!

### 【新入会員自己紹介】大野 拓さん

日の出橋近くに妻子と越して来てもうすぐ10年になります。実は私の祖父母の家もこの辺りにあったので、30年以上前の幼少期には(臭かった)鼻をつまんで橋を渡った記憶があります。それが今では、春は桜が咲き誇る下をカルガモたちが悠々と泳ぎ、夏には蝶(アサギマダラも見ました)やトンボ(ハグロトンボがあんなに美しいとは)など昆虫たちが元気に飛び回り、冬は冬で冷たそうな川の水にずっと足を浸してコサギたちがエサを漁っている...、白子川がこんなに多様性に富んだ川だと気づいたのは、恥ずかしながらつい最近のことでした。そんな美しい川を守る当会の存在を知ったのはもっと最近のこと。遅ればせながら、こんな凄厲い川を守るお手伝いを一緒にさせてください。よろしくお願いします。

### 定例活動報告

日時 <調査開始時間>	調査項目		天気	気温 (°C)	水温 (°C)	水深 (cm)	pH	COD (mg/L)	源流部 流速 (km/h)	源流部 流量 (L/秒)	主な活動 特記事項	参加人数 (名)	収集ゴミ 90L (袋)
	調査地点	調査地点											
2020年12月27日 <13:50~> 自主参加	源流部		晴	15	-	0	-	-	0.058	17.8	年末恒例の横断幕を取り付け、倉庫を整理し、新年を迎える準備を行った	11	30
	井頭橋				14.0	5	7.9	0					
	井頭~火の橋中間				15.4	25	7.7	0					

- ・CODとは、水の汚れを示す指標で、数値が大きいほど汚れている。当会では、低濃度簡易測定キットで指標を判定している。2は最低値できれいな水、4~6は少し汚れている、8以上は汚れている。
- ・pHとは、酸性とアルカリ性を示す指数で、pH7が中性、7より大きいとアルカリ性、小さいと酸性。
- ・表の(-)は、水がなくて測定不能、(欠)は測定機器の不具合等で欠測の意。
- ・水辺の会では、定例活動において水質調査とともに放射線測定も行っており、その結果<2ヶ所で10分ずつ、単位はμSv/h>についても報告します。10月...0.06(源流部)/0.07(井頭橋)

◆新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、2021年1月から3月は定例活動を中止したことから、この間の源流部の模様を以下写真で報告します。

